

information catch

HASEさんの「悟り」入門

【第3回】

前回のコラムから、長谷川俊道住職に「四法印」の教えを一つずつ紹介いただいているが、「諸法無我はとくに難しいですね」と住職は言う。「我」というものが目に見えず、具体的な形でとらえられないからだ。ものごとがうまく進まずイライラしているとき、私たちは「私（＝我）」にとらわれすぎていないだろうか。「世の中はすべてつながっていますよ」というご住職の言葉は、自分だけでなく周囲に目を向ける大切さに気づかせてくれる。

すべてはつながっている。情けは人の為ならず。

皆さん、こんにちは。瑞岩寺住職の長谷川俊道（通称HASE）と申します。

今回は、仏教の大原則とされる「四法印」の中から、「諸法無我」についてご紹介していきたいと思えます。

「諸法無我」は、「世の中に存在するすべてのものには『我』（が）がない」ことを教えています。しかし、「我」がないというだけで内容を理解していただくのは難しいかもしれませんね。ここから先は、自分のこととしてイメージしながらお読みいただくといいかもしれません。

たとえば、誰かと話をするとき、私たちは自分のことを「私（僕、俺などとも呼びますが）」という言葉に置き換えて話をします。特に意識もせず、

知らず知らずのうちにそう呼んでいるわけですが、これは、私たちが自分の中に「私」という主体を見出していることで起きる状況です。同様に、子どもから大人へ成長していく過程も、そのプロセスを「私の変化」としてとらえていますし、ものごとを考えるときも「私は私である」ことが前提になっていると思えます。

しかし、仏教では、自分の中の「私」こそ「我」であり、「我執（＝執着）」だと考えます。私は、「私」を主体に成り立っているものではなく、様々なものごとに影響を受けながら成り立っている存在が「私」なのです。つまり、「私の変化」ではなく、「変化しているものが私」ということです。

さらにイメージを膨らませてみてください。あなたは、生まれた時から今のあなたであることを計画していたと思いますか？ 私は、この世に生まれ出した瞬間から性格や生き方が決まっている人などいないと思っています。時間を重ねながら、家族や友人、学校の先生などの影響を受けたり、生活している風土や食べ物からも影響を受けたりしているでしょう。あなたの周りの

あらゆるものごとが作用し合い、良くも悪くも変化を続け、今のあなたに至っているのではないのでしょうか。

「人は1人では生きられない」という言葉を耳にすることがありますが、本当にその通りだと思います。ただし、それは互いを支え合うという意味だけでなく、あなたという存在自体が、周囲の影響なしには成り立たないという意味もあるからです。

お寺の講話で皆さんに「諸法無我」をお話するときは、もっと簡単に、「世の中のすべてのものごととはつながっているんですよ」とお話ししますが、その背景には、ここまでご説明してきたような内容があります。あなたが周囲から影響を受けるように、あなたもまた周囲に影響を与えています。すべての存在は、互いが作用し合いながらそこにあるのですから、意識しようとしまいとみんながどこかでつながっているわけです。人と人だけでなく、動物も植物も、あるいは大地も空も、家も車も、すべてそうです。

仏教に「因果応報」という言葉があることを皆さんもご存じだと思います。一般的には「悪いことをすれば、必ず罰が下る」といった意味で使われ



群馬・瑞岩寺住職 長谷川 俊道
福井県永平寺で修行後、ハワイ・パールハーバーのお寺に赴任。帰国後は瑞岩寺副住職となり、4月に住職に就任。開かれたお寺を目指し、財務公開や、お寺での講演会、ライブ開催など、お寺の常識を覆す挑戦を続けている。現在、「HASEの金曜は聴きこみ寺」というポッドキャスト番組でより良く生きるヒントを発信している。

ることが多いですが、仏教では良くも悪くも、ものごとは「原因」に対して「報い」があると考えます。そして、この「原因」に影響を与えているのが、周囲とのつながり（＝縁）です。そう考えると、周囲とのつながりがどれだけ大切かを実感いただけると思います。ビジネスでも、プライベートでも、「自分さえよければ」という考えでは、周囲の応援を得るのは難しいでしょう。つながりを大切に、「みんなに利のあることを」と考える姿勢が私たちを幸せに導くのだと思います。



出典：フジサンケイビジネスアイ